「読むこと」分科会

古典学習における視覚教材の利用について

～物語を絵巻や浮世絵から読み解く～

　　　　　　　　　　　　　香川県高松市立桜町中学校　中　桐　由　里

**１　提案要旨**

非連続テキストとしての写真や絵図を読む活動が注目されている。中学1年生教科書でも5社全てに『竹取物語絵巻』のカラー写真が掲載されている。

今回はこの絵図を視覚教材として，絵図を読むことから古典の学習を始めることにより，古典に深く親しみ，「愛情を持って発展させる態度」[[1]](#footnote-1) を養うことを目指した。絵図を見て得られる疑問や推測を言語化することで,言葉による見方・考え方を働かせ,口語訳の文章をヒントに，絵図と文章, 絵図と絵図あるいは文章と文章を比較することで古典を理解させようとした。これは学習指導要領にある目標(3)「我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」を受けたものである。

**２　実践の概要**

(1)　1年「5人の貴公子はどんな人物なのだろう」（『竹取物語』と「竹取物語絵巻」）

絵巻に描かれている5人の貴公子の人物像について想像し，口語訳と比較した後，古文中で探すという言語活動を行った。「絵を見て文章に結びつけることができた」「古文と現代文を比較して読むことができた」「得た情報を適切に使うことができた」という感想が多く得られるなど，生徒は個人活動においてもグループ活動においても意欲的に取り組めたようだ。

(2)　2年「『平家物語』の中で“推し”のHEROを見つけよう」（『平家物語』と「浮世絵」）

好きな浮世絵を1枚選び，描かれている場面や人物について想像し，口語訳と比較した後，古文中で探すという言語活動を行った。生徒は絵図から読み取るヒーローの様子を口語訳で確認しようとし,遡って古文へとたどっていった。人物の心情について十分考えることができ,友達と話し合うことで視野をより広げることができた。

**３　成果と課題**

(1)　成果

アンケートについては，GIGA端末を用いてFormsで回収した。今回の実践に対して肯定的な回答をした生徒が90％以上おり， 絵図を用いて生徒の意欲を高めた後に，絵図と文章との関連や比較によって，抵抗なく古文を読み理解しようという意欲を高められたと考えられる。

(2)　課題

絵巻や浮世絵を用いる以外に,マンガを使ったり地元の情報を新聞にしたり，古典の学習に関して多様な方法を模索するなど，教員が意欲的にアイディアを出して言語活動を考案する様子が見られた。多様な言語活動の有効性について，今後さらに研鑽を深めたい。また，たくさんの文章と出会わせることが古典学習においては有効であることがわかるが，限られた授業時数の中で，どのように機会を設けるかが課題である。

1. 「中央教育審議会答申」（平成28年12月21日） [↑](#footnote-ref-1)